令和6年度竹パウダー施用試験（大葉しゅんぎく）

1 試験概要

(1) 設置場所 北九州市立総合農事センター土耕温室G（北九州市小倉南区横代東町1丁目6-1）

(2) 対象品目及び調査項目

品目名	大葉しゅんぎく
栽培期間	令和6年10月25日から令和6年12月12日
調査項目	・地上部全長 (cm) ・地上部重量 (g)

(3) 試験区の構成

試験区名	内容	株数
竹パウダー区	各品目栽培前に竹パウダー1kg/10㎡施用	10株
竹チップ区	各品目栽培前に竹チップ1kg/10㎡施用	
慣行区	無施用	

2 試験結果

(1) 地上部全長 (cm)

試験区/No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均 [※]
竹パウダー区	15.0	24.0	18.0	13.0	13.0	12.0	15.0	19.0	23.0	24.0	17.5
竹チップ区	22.0	21.0	18.0	20.0	13.0	14.0	17.0	18.0	17.0	17.0	17.8
慣行区	12.0	15.0	15.0	20.0	18.0	18.0	10.0	16.0	17.0	15.0	15.8

(2) 地上部重量 (g)

試験区/No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均 [※]
竹パウダー区	72.9	63.4	86.5	28.0	26.2	38.3	24.0	82.7	79.0	58.9	56.2
竹チップ区	47.3	22.9	30.0	40.9	76.0	74.4	84.0	46.5	68.5	34.0	52.2
慣行区	55.0	50.5	56.5	31.5	31.0	96.0	19.0	38.0	34.5	52.0	43.6

※大小を除いた平均

3 まとめ

地上部の全長においては竹チップ区が最も高く、次いで竹パウダー区という結果になった。また、重量については竹パウダー区が最も高い値となった。

この結果から、今回の栽培においては竹由来の資材が大葉しゅんぎくの生育について好影響があることが示唆された。